

# ERL推進室報告

2010年4月27日 河田 洋

- ERL評価専門委員会(4月22日)
- 東カウンターホールのお披露目



# 東カウンターホール改修工事現場見学会

2010/04/09







# 今年度予算に関して

- 2月17日 KEK研究推進会議 2月25-26日 光源ISAC
- 3月3日 推進部打ち合わせ 3月8日 機構長との面談
- 3月15日 研究推進会議TFで報告 3月17日 研究推進会議で報告

- 4月5日 高崎理事から暫定予算として2.5億円相当（量子ビームの1.5億円＋物構研の1億円相当）。
- 計画のレビューを行い、計画に妥当性(予算とマンパワー)を評価してもらうことが追加配分の条件。
- 4月22日にERL評価専門委員会を開催し、その中で計画の内容のレビューを行った。

# ERL評価専門委員会

委員長：  
生出勝宣  
加速器研究施設長(KEK)

委員：  
熊谷教孝氏(理研)  
山口誠哉氏(KEK)  
加藤政博氏(分子研)  
榎本収志士(KEK)  
花木博文氏(JASRI)  
赤井和憲氏(KEK)  
小林仁氏(KEK)

4月22日 KEK3号館セミナーホール

[http://pfwww.kek.jp/ERLoffice/erl\\_hyouka/index.html](http://pfwww.kek.jp/ERLoffice/erl_hyouka/index.html)

10:00

はじめに	高崎 史彦	(5分)
放射光科学の意義:	若槻 壮市	(10分)
全体の概要 予算:	河田 洋	(20分)
cERLとERLプロジェクト:	坂中 章悟	(30分)
高輝度電子銃:	山本 将博	(20分)
励起レーザー開発:	本田 洋介	(20分)
前段加速超伝導空洞:	加古 永治	(20分)

12:05 - 13:20 (昼食、休憩)

13:20

主加速部超伝導空洞:	梅森 健成	(20分)
ヘリウム冷凍機設備:	仲井 浩孝	(20分)
RF源:	道園 真一郎	(20分)
周回部:	原田 健太郎	(20分)
施設・設備:	芳賀 開一	(20分)

15:00 - 15:20 (休憩)

総合討論: (60分)

16:20 - 17:20 評価委員による議論 (60分)

17:20 評価委員による評価概要説明 (30分)



# 評価概要(暫定版)の抜粋

・本日の各担当者からの発表からは、世界に先駆けてこの最先端の加速器を実現しようとする意気込み、cERLの開発への強い意欲が十分に感じられた。特に比較的若手の研究者が中核となって研究開発に取り組んでいる点が強く印象に残った。その意欲と技術的水準はプロジェクトの推進に必要なcritical massに達していると思われる。

・当面の目標設定として「35 MeV, 10 mA, 入射部エミッタンス 1  $\mu\text{m}$ 」は妥当なマイルストーンである。2012年度末までに35 MeV, 10 mA, 入射部エミッタンス 1  $\mu\text{m}$ 、という目標を達成する上で、コスト・人員・技術上の致命的な問題点は見つからない。上記目標の達成期限を2012年度とするのは、必要な予算が手当されれば、技術的には妥当である。

# 評価概要(暫定版)の抜粋2

・人員は、約10FTE/年の追加が必要と報告されているが、以下の努力(すでにある程度行われている)により、必ずしも解決不能とは思えない:

1) 開発に本質的に必要な技術と頭脳を担う人員はすでにかなり揃っていると見受けられる。

2) KEK内で系・プロジェクト横断的に業務の共通化・合理化を進める。特に加速器第7系については、一定数のcERLへの専門化とPF/PF-ARの負担軽減が望ましい。後者については、物構研はもとより、光源利用者コミュニティの理解と協力が不可欠である。

3) KEK外の研究者の参加をさらに拡大する。また、KEK内部のメンバーはもとより、外部の方にも、たとえ専門外の作業であっても協力をお願いする。

4) 開発的要素の多い事項については大学院生を積極的に招き入れることも検討すべきである。総研大、受託学生など様々な形があるはずである。人材育成という観点からも重要と思われる。

今月中に最終評価書がまとめられる予定

